

〔相國寺塔供養記〕曼珠院僧正御坊○道岡崎僧正御房、いづれも長物見の小八葉にて、車副四人、上童一人充侍などめしぐせらる。

青蓋車

〔倭名類聚抄十一〕青蓋車 續漢書輿服志云、皇太子皇子、皆朱輪青蓋、故曰青蓋車。

〔箋注倭名類聚抄三〕按清寧紀云、小楯等奉億計弘計到攝津國、使臣連持節、以王青蓋車迎入宮中、是史家潤色、用後漢安帝紀文耳、其實皇國無有王青蓋車之制、故紀訓幾三乃三久流万、別無其名、疑源君據記錄載、不攷事實也。

〔日本書紀十五〕三年正月丙辰朔、小楯等奉億計弘計到攝津國、使臣連持節、以王青蓋車迎入宮中、〔古事記傳四十三〕以王青蓋車は、例の漢文の潤色なり、皇朝には古も今も、さる制の御車あることなし。

飛車

〔倭名類聚抄十一〕飛車 兼名苑注云、奇肱國人今秦國人、右臂故名之、能作飛車、從風飛行、故曰飛車。

〔箋注倭名類聚抄三〕按山海經、海外西經、奇肱之國、其人一臂三日、注其人善爲機巧、以取百禽、能作飛車、從風遠行、兼名苑注、蓋本于此、又按飛車、見空物語、菊宴卷、竹取物語、及榮花物語、御裳著卷、又按續日本紀、養老六年、唐人王元仲、造飛船扶桑略記、載作飛車、蓋飛車之名、膾炙當時人口、故皇國誤飛船爲飛車也。

〔竹取物語〕大ぞらより、人雲にのりておりきて、土より五尺ばかりあがりたる程に立つらねたり、○中たてる人どもは、さうぞくのきよらなる事物にも似ず、飛ぶ車ひとつぐしたり、

指南車

〔倭名類聚抄十一〕指南車 鬼谷子注云、周成王時、肅慎氏獻白雉、還恐惑、周公作指南車、以送之。

〔日本書紀二十六〕四年、是歲、沙門智踰、造指南車。

〔日本書紀二十七〕五年、是冬、倭漢沙門知由、獻指南車。

四望車

〔本朝世紀〕康治元年三月四日、是日平等院一切經會也、已刻法皇○鳥并高陽院○藤原自小松殿臨。